

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3990100459		
法人名	社会福祉法人 ふるさと自然村		
事業所名	グループホーム タヤけ小やけ		
所在地	高知県高知市神田1002-1		
自己評価作成日	令和3年8月18日	評価結果 市町村受理日	令和4年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1.真摯に寄り添い、個性に沿った対応を行うことで、利用者一人ひとりがその人らしく生活できるよう支援する。</p> <p>2.各個人の残存機能を大切に、活動や役割提供を通して、楽しみや生きがいのある日々を送れるよう支援する。</p> <p>3.言動を否定せず、本人が上手く言い表せない思いや希望を汲み取り、受け入れる姿勢を持ち接し続けることで、心を開きやすい環境を作り、人としての尊厳が守られるよう支援する。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JkyosyoCd=3990100459-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	令和3年11月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、住宅街に位置し、3階建の1階がグループホームで、上階は母体法人運営の経費老人ホームとなっている。施設内は明るく清潔感があり、利用者は家庭的な雰囲気の中で、落ち着いて暮らしている。</p> <p>管理者、職員は、日々の関わりを大切に、利用者が笑顔で、個々の能力を最大限発揮できて、その人らしい生活が送れるよう心がけ、支援している。</p> <p>コロナ禍による行動制限のある中、季節の行事に合わせて食事を楽しんだり、毎日の体操や敷地内散歩を積極的に行い、利用者が事業所生活を楽しめるよう工夫している。管理者、職員が一丸となって理念に基づいた事業所運営を実践し、サービスの質の向上を期待できる事業所である。</p>

自己評価および外部評価結果

ユニット名: タやけ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ禍のため、職員は出勤時に玄関に掲げている理念を読み上げて業務に入り、毎月のミーティング時にもマスク着用のうえ、小声で読み上げている。	理念は、開設時のもので始業時、ミーティング時に唱和し、理念に基づいたケアについて意識づけが行われ、職員も理念に立ち戻りながら日々のケアで実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で外出を控えており、交流はできていない。	コロナ禍前は、散歩時に地域住民と挨拶し、幼稚園、小学校の運動会を見学したり、時には花の差し入れもあった。前回の課題であった町内会の活動を通じた災害時の協力体制づくりや、事業所の啓蒙活動には取り組めていない。	ともに暮らす地域住民の一員として、地域の活動や行事の情報収集を行い、地域との協力体制を構築するために、前回の課題解決に取り組むことを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やボランティアの来所等、外部からの接触は感染防止のため実践していない。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、職員間のみで行っている。	自己評価、外部評価の結果報告や明らかになった課題についての協議がなく、報告のみで意見や討議の記録がない。議事録の家族への送付はしていない。現在は、運営推進会議そのものが行われていない。	運営推進会議では、今後評価で明らかになった課題について協議していくこと。また、議事録を家族全員に送付することを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍のため、中止している。	介護保険の認定継続申請に市の介護保険課に出向くが、挨拶のみである。コロナ禍で運営推進会議が休止中であり、地域包括支援センターの職員とは連絡が途切れている。	市担当課、地域包括支援センターには、事業所の実情やサービスの取り組み状況を積極的に伝える方法を模索して、協力体制を築くことを期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行ため」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会委員を各ユニットで選任し、委員会を開催したり、勉強会を行い、拘束をしないケアに取り組んでいる。	年4回職員勉強会を開催し、身体拘束のないケアへの理解を深めている。。昼間は玄関は開錠し、外出傾向のある利用者に対しては、寄り添って話を聞き、気分を紛らすなどの工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	スタッフ会や年4回の委員会で話し合い、内部研修は年2回を行って、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援が必要な利用者について話し合いを行い、どういった制度が必要か理解できるように学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時は、管理者が契約に関する資料を全部説明し、理解を得ている。重要事項説明書の更新時には変更点について説明し、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所したとき、また遠方の家族には電話で意向を確認して、情報共有をしている。職員も積極的に家族とコミュニケーションを図り、運営に反映させている。意見・要望箱も設置している。	利用者は日常の関わりの中で、家族は来訪時や電話、年3回の家族会時に家族だけで話し合う機会があり、意見や要望、苦情を聞いて対応を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入所前面接、入所時検討会、判定会にも職員が参加し、職員の意見を反映させている。	毎月の職員会や日々の介護業務の中で、職員の意見や気づきを聞いている。業務中の突発的な人員不足の対応等で意見があり、検討されている。新規利用者の検討、判定は、職員全員の意見を聞いたうえで決定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	具体的な評価項目を設けて情報を開示し、職員のモチベーションが向上するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍のため、現在外部研修には参加できていないが、定期的に内部の勉強会を実施することで、職員の資質向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍ではあるが、できる範囲で母体で法人内の事業所尾研修する機会を持ち、サービスの質を向上させる行く取り組みを行なっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段の会話から本人の気持ちを汲み取り、要望などを職員間で共有し、本人や家族の意向を実現して行けるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の体調不良時や何かあったときにはすぐに家族に連絡、報告し、コロナ禍で本人との面会はできないため、来所時には些細なことまで近況を伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	3～6ヶ月に一度、本人や家族と意向や要望などを話し合いができる機会を作っている。居宅療養管理指導などのサービスを取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干しやたたみ、調理の下拵え、お盆拭きなど、できる限り一緒にできるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	3～6ヶ月に一度、本人や家族、職員それぞれに話を聞く機会を作り、本人の現在の課題について考え、適切な支援につなげるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会、外出はできていないが、状況により、窓越しの面会や、電話での会話ができるように努めている。	入所時の情報をもとに、サークル仲間の訪問、行きつけの理美容室、コーヒー好きな方の喫茶店めぐり等支援してきた。コロナ禍の現在は、窓越しの面会、手紙、電話のやり取りで関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや家事などが一緒にできるよう、利用者同士が関われる環境を多く作り、共同生活を送れるように務める。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、相談など気軽にできるような関係、環境作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリングの中で、本人や家族の意向や思いを聞き、ケアプランを作成している。日頃の会話の中で得た情報は職員間で共有している。	入所時の情報、担当者会、日常の会話の中で本人の思いや意向を把握して記録に残し、ケアプランに反映させている。意思疎通が困難な利用者は、表情や仕草を記録し、家族の情報を得て、職員間で話し合って本人の思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の入所時や家族からの聞き取りを行い、これまでの生活歴を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランや自立支援表を作成し、日々の暮らし方や心身状態、本人のできることなど、利用者一人ひとりの状況を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に職員との話し合いの場を設け、支援方法について話し合っている。	アセスメントシートや日々のモニタリングチェック表をもとに職員全体で検討し、担当者会で利用者、家族の意見を聞きケアプランを作成している。3ヶ月毎に見直しを行うとともに、本人の状況に変化があれば、随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を生活記録や日誌に記載し、申し送り時に口頭で伝えて共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の意向に耳を傾け、可能な限り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナ禍のため、活動範囲は限られているが、以前は散歩や買い物へ積極的に参加していた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による往診が定期的であり、健康状態をこまめに確認、把握している。本人や家族の意向に合わせて、以前からかかりつけの他の医療機関を、受診する利用者もいる。	利用者、家族の意向を聞き、かかりつけ医を決めている。8割以上の利用者が協力医をかかりつけ医としており、月1回の往診を受けている。他の医療機関受診は家族が同行し、受診時の情報を共有している。家族の都合が悪いときには、職員が利用者につき添うようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日々の状態を観察し、普段と様子の違うときは異常の早期発見に努めており、その都度看護師に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は医療機関の相談員と連絡を取り合い、治療の状況や本人の現状把握に努め、退院前にはADLや認知症の度合などの情報を得て、退院後の支援方針を考えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態に応じ、その都度家族や医療機関、他事業所と連携を図り、治療の延長や特別養護老人ホームへの住み替え等も視野に入れ、方針を決めている。	看取りは行っておらず、入所時に利用者、家族に重度化対応の指針を説明し、事業所生活が困難になった場合には、重度化する前に利用者、家族に説明し、同意を得て次の生活拠点の確保とスムーズな移行を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に看護師による心臓マッサージや、AEDを使用した心肺蘇生の施設内研修を受けている。職員は、いつでも対応できるように備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回、風水害、火災避難訓練、年2回地震避難訓練を実施している。消防署の指導も受けながら、いざという時に備えている。	防災訓練は、火災、水害、地震を想定して年5回行い、うち1回は消防署の指導を受けているが、消火栓の取扱訓練がない等、十分でない。地域住民の訓練への参加がない。非常食、飲料水は3日分の備蓄はあるが、他の必要と思われる防災物品の準備がない。	あらゆる場面を想定し次につながる訓練を行うため地域の防災組織とも連携して、協力体制を築くとともに、災害時に必要な物品のリストを作成して備蓄し、管理していくことを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳は常日頃大切にし、本人の心に寄り添った声掛け、対応を心掛けている。	利用者の姓をさん付で呼び、援助時も小声で話しかけ、仕草や表情をみて対応する等、人格を尊重した関わりを大切にしている。職員は入所時に個人情報の秘守義務の説明を受け、理解している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の表情、言動などから意思の表出を確認し、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの思い聞きながら、関わりを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時だけの整容でなく、その都度本人の希望も取り入れて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれが興味を持つ作業を共に行う支援をしている。	献立は、職員が交代で利用者の好みや希望を聞き、季節感のあるもの取り入れて作成している。利用者は、皮むき、お膳の準備等できる範囲で一緒にしている。職員は個々の嚥下能力に応じて見守りや介助を行い、同じフロアで食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は各個人の摂食能力に合わせた料理法、食形態で提供している。水分摂取もレクリエーションと連動して出すなどの工夫をし、少しでも多く摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの口腔状態や能力を把握し、心身共に不快感がなく行えるよう配慮している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時誘導以外でも、動作などから尿意などを見逃さず、トイレでの排泄ができるよう促す支援を行っている。	定時と、個々の排泄パターンや動作、表情から尿意を察知し、トイレ誘導をしている。オムツを使用時にも身体状況に併せて昼間のトイレ排泄を行い、頻尿時はトイレ介助するだけでなく、気分を紛らわす等の工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者一人ひとりに合わせた排便コントロールや、飲水量を把握し、不足時はその人に合わせて提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の意思や好み入浴法を尊重し、リラックスできる時間となるよう支援している。	毎日入浴できるようになっているが、本人の希望や好み入浴法を尊重しながら、最低週2回入浴は確保している。拒否傾向のある利用者には、タイミングを見て声掛けし、職員が代わって対応するなどして、入浴につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	飲食後の注意をしつつ、個々の身体や精神に合わせてながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的や副作用を理解し、適量を確実に服用できるよう、2人以上のスタッフで確認しながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの生きて来た上での喜び、得意なことなどを把握し、楽しく生活できる支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍により活発にはできないが、敷地内の屋外や屋内で活動を行うよう心掛け、支援している。	時には家族の協力を得て、図書館、喫茶店、近隣の公園に弁当持参で出かける等、可能な外出を楽しんでいる。季節の花見や、遠くの公園へのドライブもしている。コロナ禍でも日常的に敷地内に出て外気に触れ、積極的に運動を取り入れて、気分転換と体力維持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	母体法人の方針で、個人で金銭を持つことができなくなっている。預り金も無く、コロナ禍のため、買い物にも行くのは難しい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があるときは、家族への電話を支援している。手紙が届いたときは、本人に渡したり、代読もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花を飾ったり、季節感のある物を共同製作し、毎月ホールや玄関に飾っている。南に面したユニットなので光や室温に留意し、空調やカーテンを工夫して、居心地良く過ごせるようにしている	台所、食堂、居間は1フロアであり、食卓を中心に窓際にソファを置き、ゆったりとくつろげる空間になっている。清掃が行き届き、浴室も清潔感がある。職員が毎月季節感のある飾り付けをし、採光が良いので室温管理にも注意し、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを置いて寛げる場所づくりをしたり、両フロアの行き来をするなど、気の合った利用者同士で話ができるよう、レイアウトをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に本人、家族に馴染みの物を持参してもらい、居心地良く安心して過ごせるように配慮している。	入所時に利用者、家族に馴染みの物の持参を依頼し、寝具、置時計、家族写真が置かれ、その人らしい居室となっている。職員は、利用者の希望を聞き、安心安全に過ごせるよう配慮しながら、居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室にトイレを設置し、気兼ね無くゆつくりと対応できるようにしたり、フロアや廊下にも手摺をも設け、バリアフリーの中で安全で自立した生活が送れるよう、工夫している。		

ユニット名:

タヤケ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない			○	4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				
		○	2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名:小やけ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ禍のため、職員は出勤時に玄関に掲げている理念を読み上げて業務に入り、毎月のミーティング時にもマスク着用のうえ、小声で読み上げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で積極的には実施できていないが、出会った地域住民には挨拶を交わすなどして、交流を心がけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やボランティアの来所等、外部からの接触は感染防止のため実践していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、職員間のみで行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍のため、中止している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修の実施により、職員は身体拘束をしないケアへの理解を深めるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会や年4回の委員会で話し合い、内部研修は年2回を行って、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援が必要な利用者について話し合いを行い、どういった制度が必要か理解できるように学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、管理者が十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	投書箱を設け、誰でも意見が出せるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入所前面接、入所時検討会、判定会にも職員が参加し、職員の意見を反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	具体的な評価項目を設けて情報を開示し。職員のモチベーションが向上するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に決められたOJT職員はいないが、全員が交代で行っている。研修参加は呼びかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍ではあるが、できる範囲で母体で法人内の事業所尾研修する機会を持ち、サービスの質を向上させる行く取り組みを行なっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族の意向を聞き、サービス内容を作成している。状況の変化によっては、担当者与管理者が話し合いを持つようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、ケアマネージャー、担当者と家族で本人の課題、希望等を総合的に話し合い、把握するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	3～6ヶ月に一度、本人、家族と意向や希望等の話し合いができる機会を作っている。すぐに実行できないことはあるが、方策は考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者からの労りの言葉はほぼ毎日あり、馴染みの関係作りはできている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会ができないため、職員と家族が会うことも限られている。家族のつながりを大切にし、本人に変わったことがあれば、すぐに連絡をするようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族からの電話だけが楽しみなので続けて支援している。友人、知人のことを聞き、昔話をする機会を常に持っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや家事などが一緒にできるよう、利用者同士が関われる環境を多く作り、共同生活を送れるように務める。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、相談など気軽にできるような関係、環境作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや意向を把握するよう、努力している。本人の趣味や以前していたことを家族に聞き、少しでも笑顔で過ごせるよう努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の入所時や家族からの聞き取りを行い、これまでの生活歴を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの1日の過ごし方を記録に残し、情報共有し、把握するよう努めている。残存能力を活かしていけるようにアセスメントを行い、生活の質が上がるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族の要望を聞き取り、介護計画に反映するよう努めている。担当だけでなく、職員全体に聞き取りを行い、状態の変化等見逃さないよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの際の気づきや、関わりを持ったときの利用者の状況は記録するよう努めている。介護計画のプランに沿った利用者の状況も記入し、情報共有をするよう申し送り等に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の意向に耳を傾け、可能な限り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナ禍のため、活動範囲は限られているが、以前は散歩や買い物へ積極的に参加していた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を協力医に変更する場合は家族に説明し、同意を得ている。受診には家族が同伴し、症状に合わせ希望の医療機関に診てもらっている。受診前には家族と連絡を取り合い、詳細を話し合い、合意した上で受診している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日々の状態を観察し、普段と様子の違うときは異常の早期発見に努めており、その都度看護師に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	コロナ禍により、医療機関とは電話やファックスにより連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態に応じて、その都度家族や事業所と連携を図り、支援方法について方針を決めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルがあり、それに従って対応している。救急救命法も学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時連絡先、対応対策マニュアルがあり、利用者と一緒に災害訓練を行っている。食料品の備蓄もしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに合った介護や、声掛けを行い、プライバシーを尊重している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	計画作成時や日常会話時に本人の希望を聞いてプランを作成し、担当者、管理者、その他の職員の情報を聞き、本人の意向に沿うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の好きなこと、嫌いなことを把握し、その人に合わせた支援をしている。それぞれのペースに合わせ、声掛け等を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や更衣時衣服を本人に選んでもらい、着用している。定期的に散髪をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好き嫌いを把握し、情報交換を行い、別メニューを提供している。調理中の音や匂い利用者に当ててもらおう支援をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量の把握に努め、少ない利用者には、声掛けや好きな飲み物を提供している。一口大や刻み菜にするなど、工夫や彩を考えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎回の食後の口腔ケアができています。拒否のある利用者は、少し時間を置き実施できている。義歯が合わなくなった利用者には、歯科往診を実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は全員オムツ使用ゼロで、夜間のみ使用する利用者がいる。汚染パットは新聞紙に包み、速やかに破棄している。トイレでの排泄は全員行っている。パット類の見直しは、常に検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者一人ひとりに合わせた排便コントロールや、飲水量を把握し、不足時はその人に合わせて提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は利用者楽しみの一つでもあり、個々に合わせた入浴支援をしている。入浴を拒む利用者には、言葉掛けや対応方法の工夫をし、入浴につなげている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息、読書、散歩等、本人の生活習慣に合わせてリズムを取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れや誤薬を防ぐため、職員2人でチェックし、服薬を行っている。薬情報で服用薬の目的や副作用を理解し、用法、容量を守っている。服薬支援をする中で状況の変化があれば、家族、医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの生きて来た上での喜び、得意なことなどを把握し、楽しく生活できる支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍により活発にはできないが、敷地内の屋外や屋内で活動を行うよう心掛け、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	母体法人の方針で、個人で金銭を持つことができなくなっている。預り金も無く、コロナ禍のため、買い物にも行くのは難しい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の面会ができないため、家族とのつながられる電話や、手紙のやり取りの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の壁画飾り等、利用者の過ごしやすい空間作りの工夫をしている。食器も一人ひとり個別のものを使用し、在宅生活に近づけるよう努力している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを三つ配置し、一人で過ごしたり、気の合う利用者で過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物を家族に持参してもらい、本人と相談しながら配置している。ベット回りも安心して過ごせるよう、本人と環境作りをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、行動抑制につながらないよう危険防止策を講じている。		

ユニット名:

小やけ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない